

公益財団法人 日本交通公社 出版物のご案内

当財団では、調査研究の成果を、出版物を通して広く公開しています。各書は次の方法でお求めいただけます。

● **当財団ホームページ** / 賛助会員様は一部を除き会員登録が不要です。
<http://www.jtdor.jp>

● **書店** / 大型書店、政府刊行物サービスセンター(官報販売所)取扱所などでご購入いただけます。または、お近くの書店で注文ください。
 ● **オンライン書店** / オンライン書店からは、紙書籍版とともに、電子書籍のペーパーバック版(プリントオンデマンド印刷)、電子書籍版も発行しています。

■ **2014年度温泉まちづくり研究会デイスカッション記録(2015年7月発行)**
 *オンライン書店(amazon.co.jp)より『ペーパーバック版(プリントオンデマンド印刷)』も発行中。
 当年度開催3回の記録です。第1回は「海外の魅力的なリゾートに学ぶ」、第2回は「現代アートを起爆剤に温泉街を活性化!」道後温泉のまちづくりに学ぶ。第3回は「改めてインバウンドについて考える」。温泉地の将来を考える上で、多くのヒントが見えてくる1冊。

● **旅行年報2015(2015年10月発行)**
 *オンライン書店(amazon.co.jp)より『ペーパーバック版(プリントオンデマンド印刷)』も発行中。
 日本人の旅行実態に関する調査、訪日外国人の発地調査、都道府県の観光政策アンケート調査などの当財団独自調査の分析レポートを中心に、「旅行市場」「観光産業」「観光地」「観光政策」について近1年間の動向出来事を経覧した1冊。当財団の研究者が分析、執筆、編集。当財団ホームページからPDFにて公開中。

■ **旅行産業論(2016年2月発行)**
 *オンライン書店(amazon.co.jp)より『ペーパーバック版(プリントオンデマンド印刷)』も発行中。
 立教大学、駒工TB総合研究所、当財団を中心に構成される「立教大学観光学部旅行産業研究会」では、立教大学の講義内容をベースとして、旅行業の体系的な整理を行い、その成果を書籍化。実務的内容にとまらず、旅行業全体が学術的かつ俯瞰的視点から解説されており、旅行業に従事する人、志す人、研究する人へ多くの示唆に富む1冊。

■ **平成27年度観光地経営講座 講義録最新刊(2016年3月発行)**
 *オンライン書店(amazon.co.jp)より『ペーパーバック版(プリントオンデマンド印刷)』も発行中。
 「観光地経営の8つの視点と実践」地域はインバウンドをどう捉えるか? 地域主体の戦略を考える」を主題に、特に「③市場創出・新たな魅力と市場をつくる」への対応に焦点を当て、観光庁、岐阜県、白馬村、しまなみ海道それぞれの立場での取り組み内容や考え方などに触れることにより、各地での実践におけるヒントを提示した1冊。

※担当:公益財団法人日本交通公社 観光文化情報センター
 電話 03・5266・9073 <http://www.jtdor.jp>



次号予告

● **現政権が進める「地方創生」**は、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策です。中でも観光は、定住人口の減少を補う地方への誘客と消費、そして雇用にも期待が寄せられているものの、急激なインバウンドの増加などによって雇用不足が顕在化し、十分な受入環境が整わない観光地も少なくありません。次号では、温泉地を例に観光産業における雇用不足の現状と今後の方向性について考察します。

当財団からのお知らせ

■ **「2016年度シンポジウム・セミナー開催予定」**
 当財団主催の今年度シンポジウム・セミナーについては案内します。

● **観光地経営講座 上期 6月**
 2013年12月発行の「観光地経営の視点と実践」をテキストにして、当財団がこれまで培ってきた経験とノウハウを観光地経営という視点で整理したプログラム。昨年度は「市場創出インバウンド」に焦点を絞って開催しました。今年度については現在企画中です。

● **旅行動向シンポジウム 下期**
 当財団独自の旅行市場調査および観光政策などに関する調査の研究成果発信の場として、当財団研究員が発表する予定です。

● **「研究者コラムの紹介」(2015年12月〜2016年2月)**
 各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究者コラム」に掲載した3カ月分を、紹介します。

- **「研究者コラム」で検索できます。**
- 2010 観光地と災害について考える (堀木美告)
 - 2011 火山の恵みと噴火への備えを切り口に (牧野博明)
 - 2012 韓国の観光実情についての考察 (守屋那彦)
 - 2013 Exhibition (展示会)に求められるもの (梅川智也)
 - 2014 2015年を振り返る (寺崎竜雄)
 - 2015 2015年、印象に残った地域、人、そして、言葉 (吉澤清良)
 - 2016 ロングトレイル・コラム (吉谷地裕)
 - 2017 「ロングトレイル」連携に学ぶ実態ある連携 (相澤美穂子)
 - 2018 「インバウンド消費」の行方 (大隅一志)
 - 2019 東京国立近代美術館「ようこそ、日本へ」展を鑑賞して (柿島あかね)
 - 2019 「鮮やかに浮かび上がる」戦前のわが国の観光の姿 (門脇菜海)
 - 2019 旅行業の体系的整理への試み (川口明子)
 - 2020 「旅行産業論」執筆、出版を通して感じたこと (川村竜之介)
 - 2021 観光地での住民意識調査実施を通して感じたこと (川村竜之介)
 - 2021 訪日客にも光る! 日本の生活サービス (川村竜之介)
 - 2022 旅行・観光に関する日進月歩の「メディア」サービス (川村竜之介)

編集後記

◆ 2011年(平成23年)3月11日から歴の上では5年の月日が経過しましたが、復旧・復興への道程はまだまだです。インフラの復旧ができなければ旅行・観光は始められないということではなく、「ひとの動きが復興への力になる」、特集担当研究員が現地へ赴き、座談会、対談、インタビュー取材で話された各地の皆様の声から分かりました。それを誘引する旅行・観光への期待が大きいということは、旅行・観光に関わる研究者・実務家のさらなる取り組みが注視されていることを再認識しました。

◆ 我が国は地方を元気にしなければならぬとして、予算を組んで施策を展開してきています。当財団の研究員は日本の地域の活性化に向けて、実践的な観光研究を進めています。地方創生と観光との関係の特集企画として小誌で取り上げます。どうぞご期待ください。

◆ 東日本大震災直後の4月から編集を担当し、3月31日にその任を終えました。震災直後の2012年(7月)で、旅行・観光・ツーリズムと大震災をテーマにどう関係づけ、どんな企画にすべきか自問自答を繰り返したことを思い出します。これまでご愛読にご支援くださいました皆様にご面をお借りして心よりお礼申し上げます。(片桐)

編集室メールアドレス:
kankoubunka@jtdor.jp
当財団のメルニュース会員を募集中!無料/月1回発行。
 ホームページから登録いただけます。

「観光文化」のPDFを当財団ホームページで公開中。229号よりPOD(ペーパーバック)版の販売も開始します。